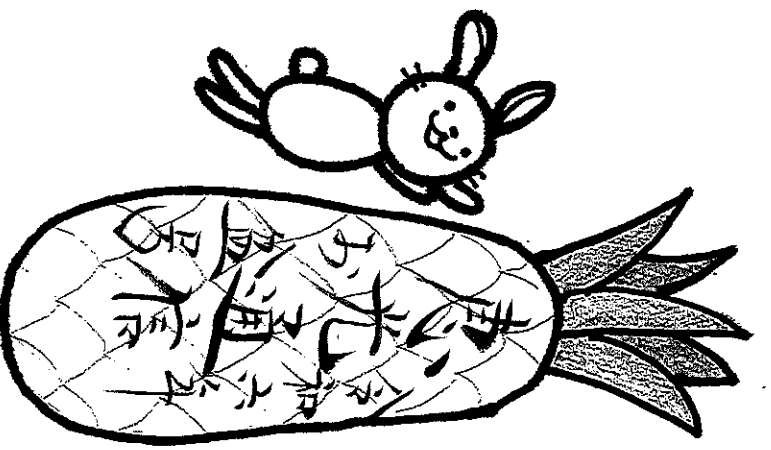


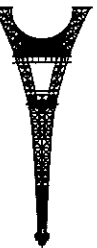
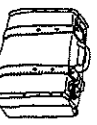
暑中お見舞申上げます



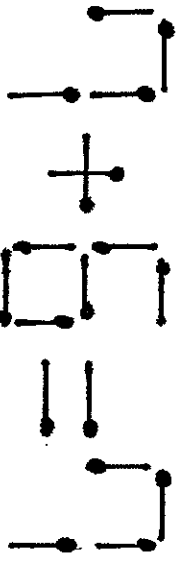
え、トニホが大量に飛行してる。秋じゃい、梅雨さえも明けていなのに。不思議に思い調べてみると五月ころには飛び始め七月から八月にはトニホの種類も増えるようになります。トニホは秋のイメージがありますが、そうではなかつたようです。九月から十月には赤トニホの仲間が登場するそうです。

妙光は今年も五月末から六月三十日まで日蓮宗総本山久遠寺があります身延山に修行僧さん達の指導のお役目の為に籠っております。帰ってきますと本堂の改築が終了して真新しい柱が白々美しく木の香りがふわりとただよっていました。七月四日には婦人会の皆様のお力を借りし本堂の大々工じをしました。後は仏祖三室様や日蓮聖人二尊像や妙見大菩薩、大太鼓などをお移しするだけです。お盆が終わり涼しくなったら檀信徒様は「披露出来ると思えますので楽しみにお待ちしております。どうぞ。

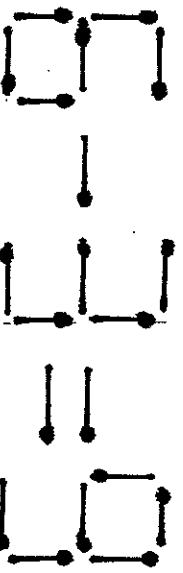
身延コリア 身延で食べるおまんじゅうはなぜあんなにもおいしく感じるのだろうか。身延で修行していると多くの方が「供養して下さる。小麦粉にしょう油や黒糖などを混ぜて練り、皮でしあんを包んで蒸されたまんじゅう。お店によって少々の味が違っているので食べてみるだけでも楽しいのでは。」



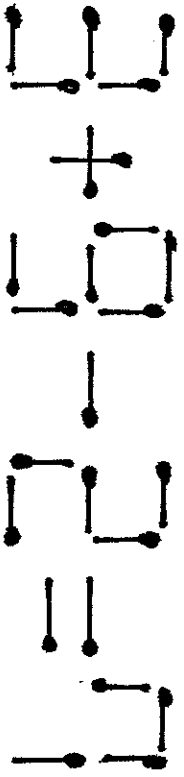
Q3 ツチ棒を1本動かして正しい式にしてください



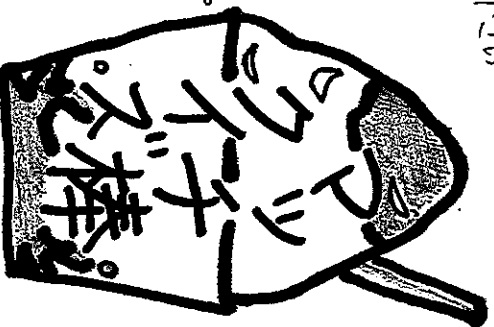
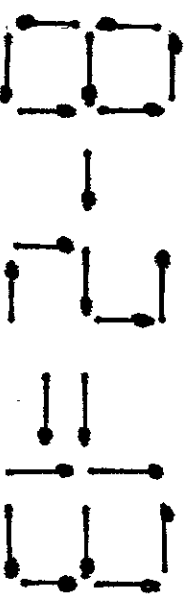
Q1 ツチ棒を1本動かして正しい式にしてください



Q4 ツチ棒を1本動かして正しい式にしてください



Q2 ツチ棒を2本動かして正しい式にしてください



子「おふへん、これで何かつまいわんでお買いな」

母「あらあ、じつや優曇華（うでんげ）の花だ。おまえから小遣いおらんのか、初めてだよね、だし

か」

右の会話に出てくる優曇華（うでんげ）の花。こゝでは「めったにならぬ喜びに出会ふこと」の意味

で使われています。

優曇華（うでんげ）は優曇波羅（うでんばら）ともいいますが、この優曇波羅は法華經にも出て

きます。フサナリイチジクという実在の植物を指す場合と、ウサカザロウという昆虫の卵を指す場

合と、3000年に一度花が咲くという想像上の植物を指す場合があります。法華經に出てくるの

は、3000年に一度咲く花のごとで、仏さまに直接お会いすることができるのは、優曇波羅が花

開くようにきわめて稀（まれ）なごとの譬えで使われています。この地球上で仏さまに会われた方

は、おおよそ2600年前に生きておられた方々でしょう。今の北インドのあたりに実在されたお釈

迦さまが仏さまになられているので、その時代に生き、仏さまにお会いできた人々がつらやまし

くなりません。仏さまは私たちの煩惱を打ち破ってくださる方なので、お会いするだけで心が明る

い方向へ向いていきます。現代に生きる私たちは仏さまになかなかお会いすることができません

が、教えとして仏さまは私たちのそばで生きてくださっています。

世尊甚難見 破諸煩惱者（乃至）如優曇波羅 今日乃值遇
せそんじんなんけん はしちなんのうや ないし にょうどんばら こんにちあひちぐ

世尊は甚だ見だてまつりがたし。おろもろの煩惱を破したまえる者なり（乃至）優曇波羅の如くに

して 今日（こんにち）すなわち値遇したてまつる

クイズの答え

Q1 9の1本を取り5にし、その1本を6におつていき8にする

Q2 8の2本を取り5にし、その2本で1を作り、8を15にする

Q3 6の1本を動かして0にする

Q4 9の1本を動かして6にする